

将棋のまち高槻が 将棋の聖地に!

西の将棋の聖地である関西将棋会館が、令和6年(2024)ついに高槻市へ移転。「将棋のまち」として、高槻の名が全国へ広まっていく!

関西将棋会館

●かんさいしょうぎかいかん

将棋文化を全国へ発信し
市民も気軽に親しめる場所へ

日本に2カ所しかない将棋の聖地の一つ・関西将棋会館が、大阪市福島区から高槻市へ移転することが決定。令和6年(2024)に新たに誕生する5階建ての将棋会館は、棋士の対局はもちろん、誰でも気軽に将棋を指せる、高槻の新たなランドマークになる予定だ。

④未定 MAP P29C3 ⑤芥川町2-2 ※詳細は未定
→ 11 ページも参照



⑥いろいろな相手と対局ができる将棋道場のほか、グッズショップなども入る予定なので、気軽に一般利用が楽しめるそう



⑦建物の外観には将棋盤のマス目をイメージしたデザインを採用するなど、工夫されている ⑧純和風の対局室は、大阪府産の木材を用いた温かみのある空間。今後、数々の名勝負が生み出される舞台になるはず



⑨上層階には、対局室から眺められる「内なる庭」を設置予定

写真提供:(公社)日本将棋連盟 ※バスは事業者の提案で、イメージです。

将棋界のホープ

高槻市出身棋士 古森悠太五段インタビュー!

関西将棋会館の移転を喜んでいる高槻出身の棋士・古森悠太五段に、「将棋のまち」への期待を語っていただきました。

現在、棋士として活動しながら、高槻市内の関西将棋会館のサテライト教室で子どもたちに将棋を教えています。私が小学生のころはサテライト教室がなかったのですが、環境が充実している今の子どもたちのことをうらやましく思います。教室に来る生徒の中には将来有望と思える子もいて、この中から棋士が出てくるかも、と考えるとワクワクします。

また、高槻市で開催される将棋のイベントで小学生とふれあった際は、その熱意に圧倒されることもありま

私は小学2年生の時に、祖父に教えてもらったことがきっかけで将棋に興味を持ちました。だんだんと強くなって祖父に勝てるようになり、将棋にのめり込んでいったのですが、そのころは将棋が好きと周りに言っても、将棋って何?と言われることもしばしば。しかし数年前から高槻が「将棋のまち」として盛り上がりはじめ、ついに将棋の西の聖地・関西将棋会館が移転してくるようになりました。大好きな地元が将棋の聖地になる、これほどの喜びはありません。

子どもたちに将棋熱が! その盛り上がりが見えたらいい

愛してやまない地元が 大好きな将棋で元気に!



古森悠太 ●こもりゆうた

高槻市出身。小学2年生から将棋をはじめ、平成29年(2017)に棋士(四段)に。令和2年(2020)に五段に昇段。クロスバル高槻で開校中の「子ども将棋 高槻サテライト教室」の講師も務める。



①高槻市立しろあ歴史館(→P17)に展示されている、高槻城三の丸跡から出土した江戸時代の将棋の駒を見る古森五段

「将棋という新たな魅力が加わった高槻を 棋士としてもっと広めていきたい。」

高槻のまちに将棋という新たな魅力が加わり、さらに自慢できる地元になりました。これから街に将棋を感じられる場所が増えていくと、将棋界はもちろん、高槻も盛り上がりが出ていくと思います。その変化を私は、どんどん発信していきたいですね。



棋士として地元以外での活動も多いので、今後はもっと「将棋のまち」高槻を広めたいですね。将棋をきっかけに、高槻のよさも知ってほしいと思います。高槻は利便性と豊かな環境が同居している素晴らしい街です。便利になった駅前から少し歩いただけで、昔ながらの雰囲気にふれられます。四季を感じられる大自然にも近い。そこに「将棋」という新たな価値が加わり、さらに自慢できる地元になりました。これから街に将棋を感じられる場所が増えていくと、将棋界はもちろん、高槻も盛り上がりが出ていくと思います。その変化を私は、どんどん発信していきたいですね。

高槻のポテンシャルを 将棋とともに高めたい

した。子どもたちの間での盛り上がりを感じますし、彼らが遊びの一環で将棋を指す姿を見て、いつか高槻出身棋士対決が実現するのではないかと、ひそかに期待しています。同時に、私自身が彼らから憧れてもらえる棋士になれるように成長していかなければ、とも感じています。